

令和5年度 第2回つくばみらい市学区審議会

令和5年8月29日(火)午後7時

みらい平コミュニティセンター2階研修室1・2

みらい平地区新設中学校の学区について

< 本日の学区審議会の進め方 >

- I 「第1回つくばみらい市学区審議会」のふりかえり（10分）
- II グループ審議（50分）
 <<テーマ>>「みらい平地区新設中学校の学区について」
- III 各グループ発表（結果の共有）（15分）

Ⅰ 「第1回つくばみらい市学区審議会」のふりかえり

I 第1回つくばみらい市学区審議会でご頂いた主なご意見

(1) みらい平地区新設中学校以外についての学級数及び学区の考え方について

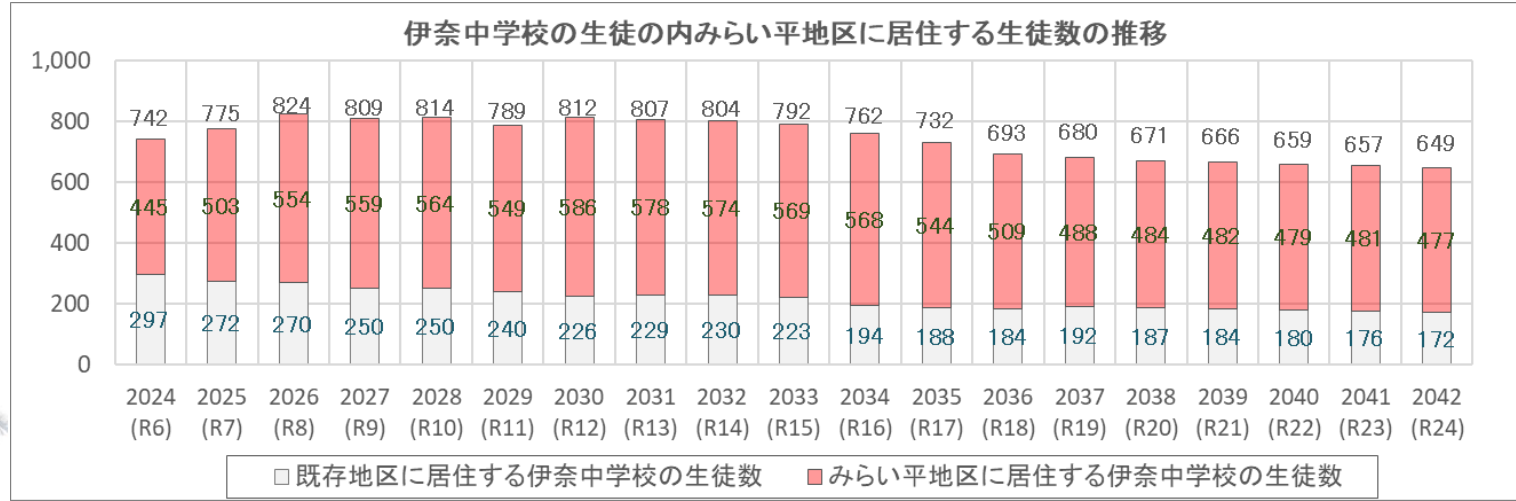
- 伊奈中学校の推計値と実績値の違いについて P.5
 - みらい平地区を除いた中学校の学校規模について P.6
 - 生徒数が減少する**既存中学校についても合わせて検討**する必要がある P.7
-

(2) みらい平地区新設中学校の学級数及び学区の考え方について

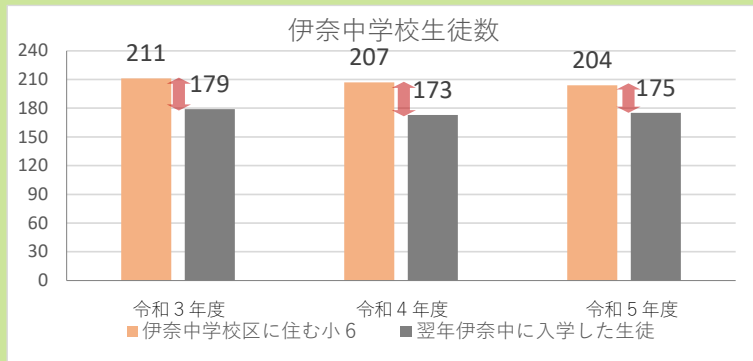
- 過大規模校(31学級以上)を大きく上回る**45教室数で教育環境は担保できるか** P.8
- 1学年15クラスだと**クラス数が多すぎて人間関係が築き難い** P.8
- 過大規模校となる場合の**通学ルートや手段**について合わせて検討して欲しい

(1)みらい平地区新設中学校以外についての学級数及び学区の考え方について

□伊奈中学校の推計値と実績値の違いについて



伊奈中学校学区の居住する生徒数と通学者数（実績）

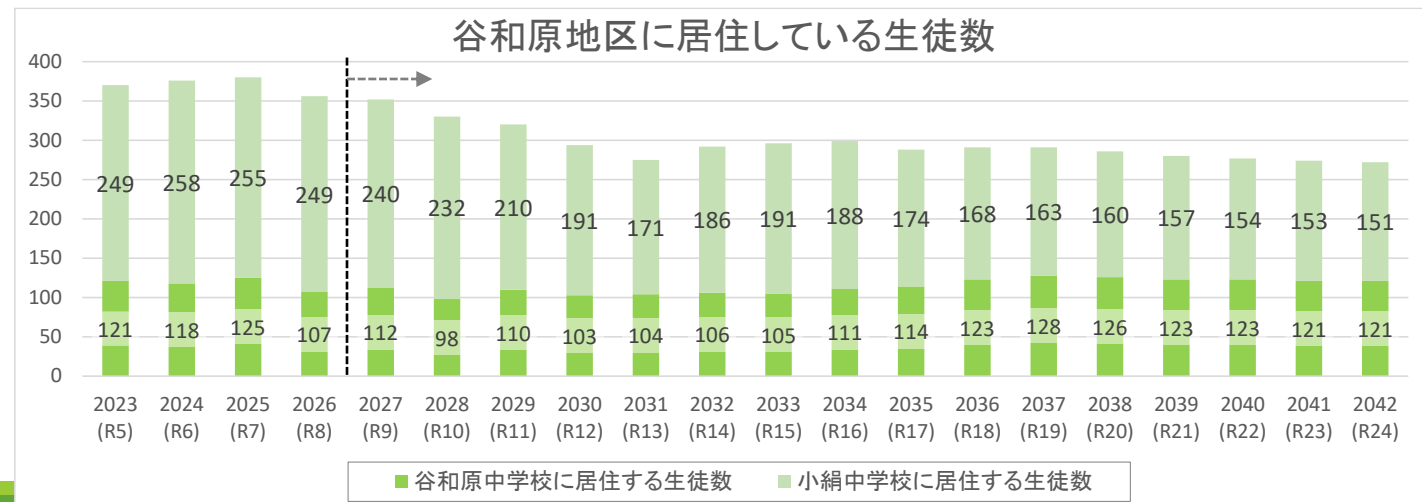
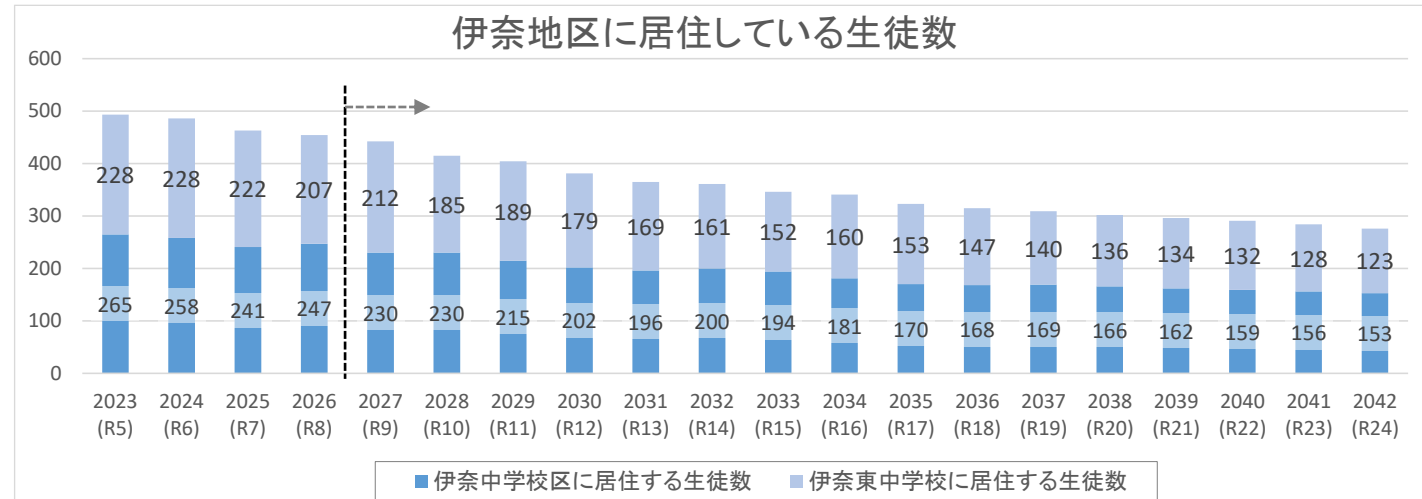


学区内居住者と通学者数の違いとして、学校全体で約100人が学区外（私立中学校等）への通学者の影響が想定されます。また、人口増加に伴い、学区外への通学者数も増加していることが想定されます。

令和3年度入学者数：32人
 令和4年度入学者数：34人
 令和5年度入学者数：29人

(1)みらい平地区新設中学校以外についての学級数及び学区の考え方について

□みらい平地区を除いた中学校の学校規模について



(1)みらい平地区新設中学校以外についての学級数及び学区の考え方について

□生徒数が減少する**既存中学校についても合わせて検討**する必要がある

○小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	○学校行事や部活動などにおいて、生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○中学校の各教科の免許をもつ教員を配置しにくい。 ○生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ○体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習に制約が生じる。
生活面	○生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○クラス替えが困難なことから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がされにくい。 ○組織的な体制が組みにくく、指導方法などに制約が生じやすい。
学校行事	○学校が一体となって活動しやすい。	○体育祭、文化祭、修学旅行などの集団活動、行事の教育効果が下がる。
学校運営	○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。	○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導などについての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行われにくい。 ○職員一人あたりの校務負担や行事にかかわる負担が重い。
その他	○施設・設備の利用時間などの調整が行いやすい。 ○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA活動などで保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

(2)みらい平地区新設中学校の学級数及び学区の考え方について

- 過大規模校(31学級以上)を大きく上回る45教室数で教育環境は担保できるか。
- 1学年15クラスだとクラス数が多すぎて人間関係が築き難い。

ハード、ソフト両面で過大規模校へ対応

○ハード面

- ・ ユニット型教室の採用により生徒の様子が見える100人程度の規模とすることで安心して学校で生活できる施設整備
- ・ 理科室、音楽室などの特別教室を授業数と学級数から必要な教室数を整備
- ・ 緊急時に迅速に避難できるよう、日常の動線利用した避難ルートを設定

○ソフト面

- ・ 適正な学校運営を図るため、茨城県に対して教職員の加配を要望

II グループ審議

《テーマ》「みらい平地区新設中学校の学区について」

1 グループ審議について

グループ審議の流れ

① 3班に分かれて審議・意見交換



② 審議・意見交換（各班）50分



③ 各グループ発表5分×3班



④ 総評 会長、副会長



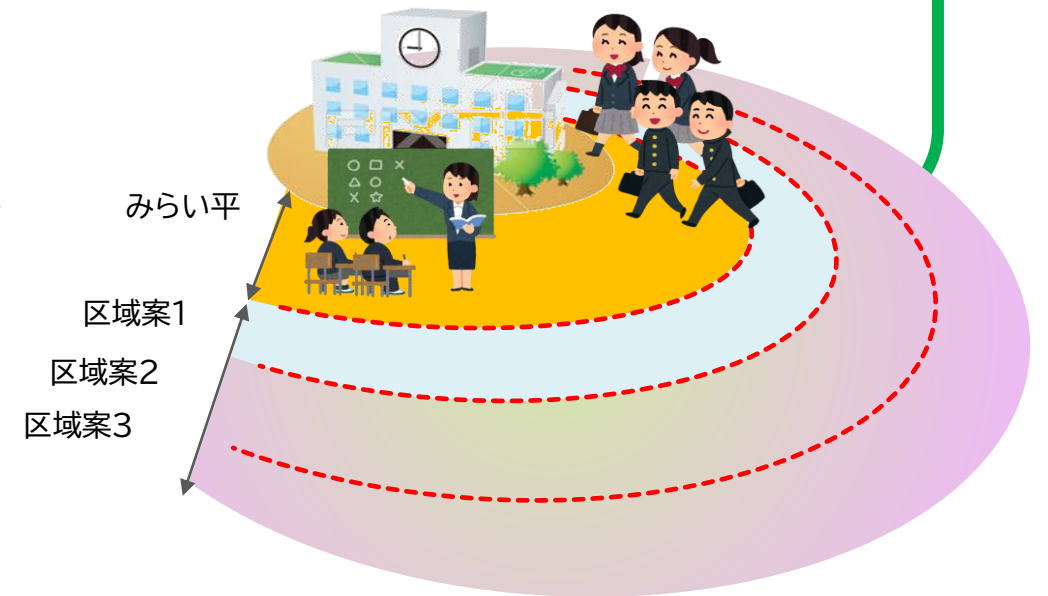
2 グループ審議のテーマ

テーマ「みらい平地区新設中学校の学区について」

論点① みらい平地区に居住する陽光台小・富士見ヶ丘小学校区の生徒は？

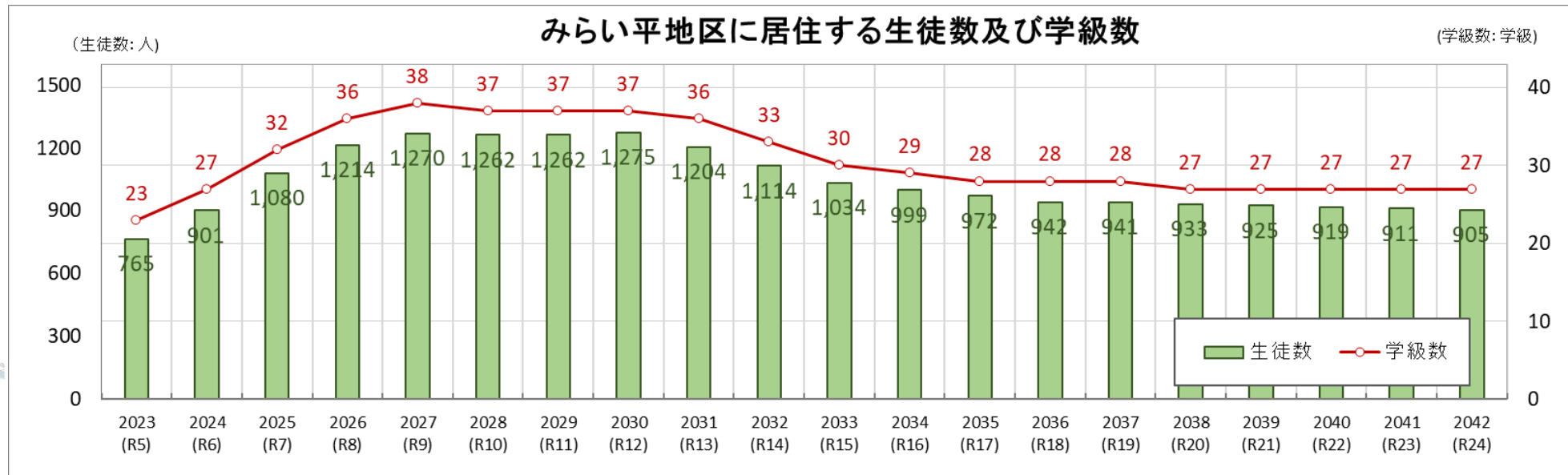
論点②-1 陽光台小・富士見ヶ丘小に指定学校の変更をしていた生徒は？

論点②-2 谷和原中学校区の生徒は？



論点① みらい平地区に居住する陽光台小・富士見ヶ丘小学校区の生徒は？

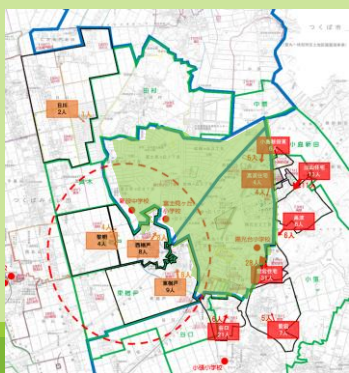
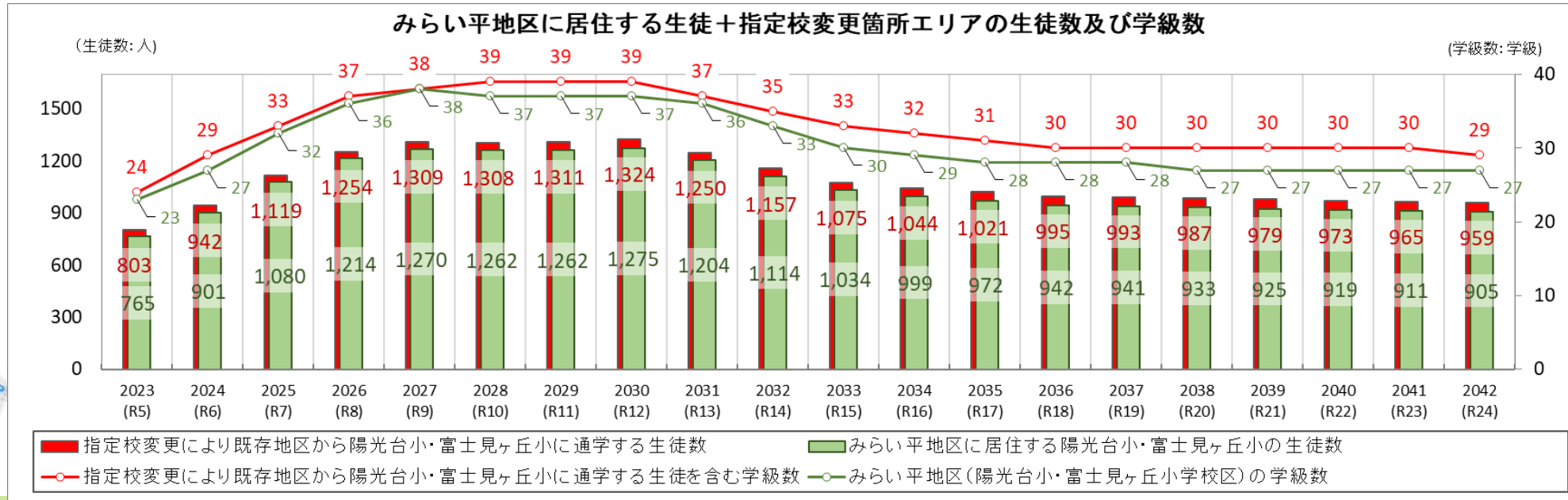
みらい平地区の生徒数・学級数



※令和5年から令和24年の生徒数は推計値、学級は学級編制弾力化により算出

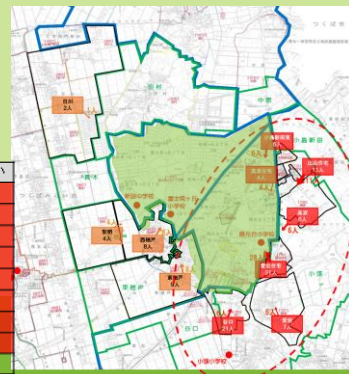
論点②-1 陽光台小・富士見ヶ丘小に指定学校の変更をしていた生徒は？

みらい平地区+指定校変更箇所エリアの生徒数・学級数



行政区	谷和原小	富士見ヶ丘小
東橋戸	1	8
西橋戸	0	8
黎明	0	4
その他	115	1
計	116	21

行政区	小張小	陽光台小
小島新田東	0	6
出山住宅	0	11
高波住宅	0	4
高波	0	6
菱岩住宅	3	28
菱岩	2	5
谷口	15	6
その他地区	47	0
計	67	66



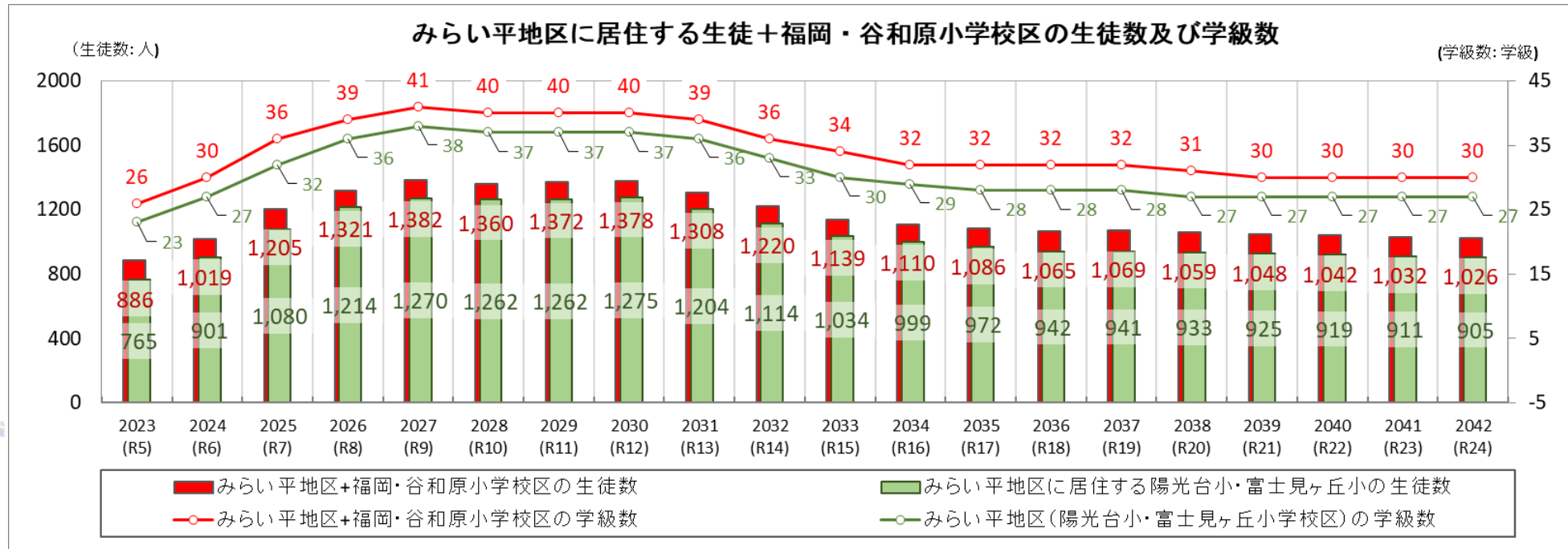
※令和5年から令和24年の生徒数は推計値、学級は学級編制弾力化により算出

小学校における指定校変更の実績 (R5) と同じ割合の生徒が新設中学校に通学することと仮定してみらい平地区に加えて算出している。

また、指定校変更の単位 (行政区) と推計値の単位 (大字) が異なることから地区単位 (小張地区など) で算出している。

論点②-2 谷和原中学校区（谷和原小・福岡小）の生徒は？

みらい平地区＋谷和原中学校区（谷和原小＋福岡小）の生徒数・学級数



※令和5年から令和24年の生徒数は推計値、学級は学級編制弾力化により算出

Ⅲ 各グループ発表（結果の共有）

MEMO